

神力品八箇の大事

第一 妙法蓮華經如来神力の事 によらいじんりき 文句の十に云はく「神は不測ふしきに名づけ、力は幹用かんゆうに名づく。不測は即ち天然の体深く、幹用は則ち轉變の力大なり。此の中深法を付嘱せんが為に十種の大力を現ず。故に神力品と名づく」と。

御義口伝に云はく、此の妙法蓮華經は釈尊の妙法には非ず。既に此の品の時上行菩薩に付嘱し玉ふ故なり。総じて妙法蓮華經を上行菩薩に付嘱したまふ事は宝塔品の時事起こり、寿量品の時事顕はれ、神力嘱累ぞくるいの時事竟おはるなり。如来とは上の寿量品の如来なり。神力とは十種の神力なり。所詮妙法蓮華經の五字は神力なり。神たましいと力ちからとは上の寿量品の時の如来秘密神通之力の文と同じきなり。今日蓮等の類たぐい南無妙法蓮華經と唱へ奉る処の題目なり。此の十種の神力は在世滅後わたに亘るなり。然りと雖も十種共に滅後に限ると心得べきなり。又云はく、妙法蓮華經如来と神との力の品と心得べきなり云云。如来とは一切衆生なり。寿量品の如し。仍って釈にも如来とは上に釈し畢おわんぬと云へり。此の神とは山王七社等なり。此の旨之を案ずべし云云。

第二 出広長舌の事

御義口伝に云はく、広とは迹門、長とは本門、舌とは中道法性なり。十法界妙法の功德なれば広と云ふなり、豎たてに高ければ長と云ふなり。広とは三千塵点より已来の妙法、長とは五百塵点已来の妙法、同じく広長舌こうじょうぜつなり云云。

第三 十方世界衆宝樹下師子座上の事

御義口伝に云はく、十方とは十界なり、此の下に於て草木成仏分明なり。師子とは、師は師匠、子は弟子なり、座上とは寂光土ほんぬなり。十界即本有寂光国土なり。

第四 満百千歳の事

御義口伝に云はく、満とは法界なり、百とは百界なり、千は千如なり、一念三千を満百千歳と説くなり云云。一時も一念も満百千歳にして十種の神力を現ずるなり。十種の神力とは十界の神力なり。十界の各々の神力一種の南無妙法蓮華經なり云云。

第五 地皆六種震動其中衆生○衆宝樹下の事

御義口伝に云はく、地とは国土世間なり、其中衆生とは衆生世間なり、衆宝樹下とは五陰世間ごあんせけんなり。一念三千分明なり云云。

第六 しゃば ぜ ちゅうう ぶつ みょうしゃ か む に ぶつ 娑婆 是中有仏 名 釈迦牟尼仏の事

御義口伝に云はく、本化弘通の妙法蓮華經を大忍辱にんにくの力を以て弘通するを娑婆と云ふなり。忍辱は寂光土なり。此の忍辱の心に釈迦牟尼仏有り。娑婆とは堪忍かんにん世界と云ふなり云云。

第七 し にんぎょう せ けん のうめつしゅじょうあん 斯人行世間 能滅衆生闇の事

御義口伝に云はく、斯人とは上行菩薩なり、世間とは大日本国なり、衆生闇とは謗法の大重病なり、能滅の体とは南無妙法蓮華經なり。今日蓮等の類たぐい是なり云云。

第八 ひっきょうじゅういちじょう けつじょう む う ぎ 畢竟 住一乘 ○是人於仏道 決定無有疑の事

御義口伝に云はく、畢竟ひっきょうとは広宣流布なり、住一乗とは南無妙法蓮華經の一法に住すべき者なり、是人とは名字即の凡夫なり、仏道とは究竟即是なり、疑とは根本疑惑の無明を指すなり。末法当今は此の經を受持する一行計りにして成仏すべき事決定なり云云。